

児童発達支援事業の質保証

- 利用者満足度を上げるための改善要素を把握する -

平成27年地域政策研究センター(地域提案型・後期) 採択課題

課題名：一関市による就学前の児童発達支援事業の効果に関する調査研究

研究代表者：社会福祉学部 准教授 佐藤匡仁

課題提案者：一関子育て支援センター

研究メンバー：齋藤昭彦・下平なをみ(社会福祉学部)、鈴木佐保・佐藤由子・菅野紘子・千葉綾・須藤眞栄子・須藤眞智子・千葉賢治・千葉敏紀(一関子育て支援センター)

技術キーワード：地方自治体、児童発達支援事業、プログラム評価

▼研究の概要(背景・目標)

一関市では、就学前の児童発達支援事業として、発達支援教室と療育教室を実施している。発達支援及び療育の効果評価及び事業プログラムの評価が不足しており、利用者や市民の理解を得るための、子どもの特性に応じた信頼性と妥当性のある支援計画の作成と実践に課題がある。これらのことから、利用者視点に立った児童発達支援事業を推進していくために、一関市における就学前児童発達支援事業の利用者を対象に、子育て支援に関するニーズと現行支援プログラムの妥当性について調査と分析を行い、得られた改善点を実践プログラムに反映させ、一関市における本事業の効果的かつ安定的な運営に役立てることが本研究の目的である。

▼研究の内容(方法・経過)

1. 調査対象: かるがも教室及びセンター利用の163人
2. 調査期間: 平成28年3月～4月
3. 手続き: 郵送又は手渡し
4. 調査内容: ①事業内容37項目(「子育てを支援する」15項目、「発達を支援する」14項目、「地域を支援する」8項目)と総合満足度(各項目について満足度・重要度を6点満点で回答)②実感感想6項目(要望など)③フェイスシート・属性項目10項目(性別など)

▼研究の成果(結論・考察)

●回収結果: 回収数91(回収率: 55.83%)

●調査結果

<満足度の特徴>

- ・施設の清潔さ、整理された教室に最も高い満足度実感。
- ・「教室運営」「学び」「相談」「プログラム」「環境」はすべての項目で高い満足度を示す。
- ・地域を支援する取り組みは相対的に低い満足度実感。

<重要度の特徴>

- ・プログラムの支援方法、ことばかけや働きかけの適切さを最も多くの利用者が重要と考えている。
- ・地域を支援する取り組みの中でも、教室の広報活動や地域の子育て支援活動との連携は相対的に重要度が低い。

<満足度-重要度の相対的な分布>

- ・重点維持項目: 「教室運営」「学び」「相談」「プログラム」「環境」は、重要度も高く、満足度も高い。
- ・改善項目: 「就学・生活・医療・教育等地域資源・サービスの情報提供(子育てを支援する)」「通園保育所・幼稚園や保健師等との連携(地域を支援する)」は、重要度は高いが満足度は低い。
- ・いつか改善項目: 「就職に関する情報提供」や「家族」「地域」を対象とした地域を支援する取り組みは重要度も満足度も低い。

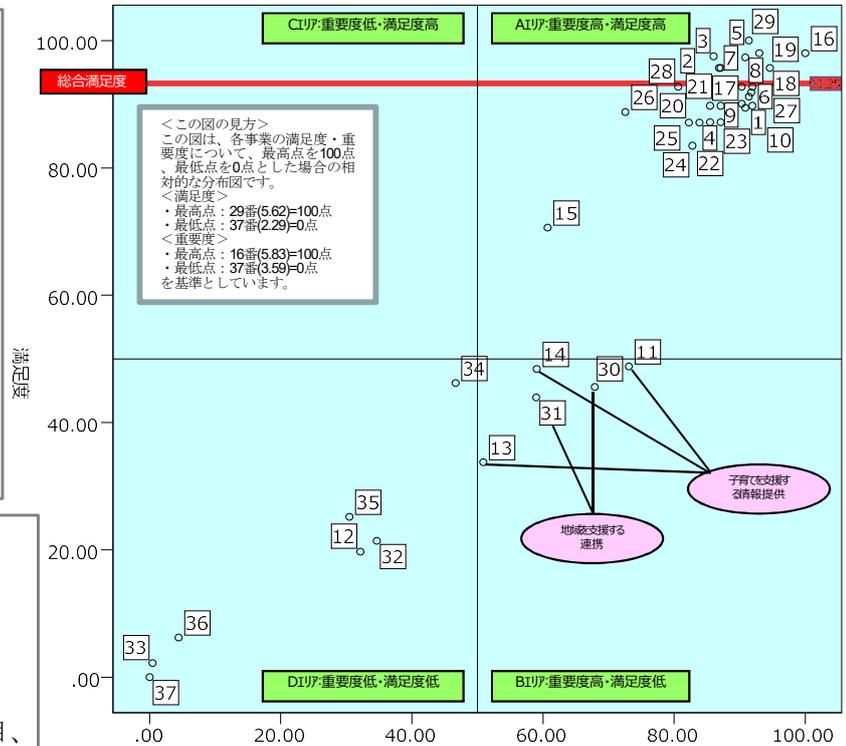


Figure 1 満足度-重要度の相対的な分布

Table 1 凡例と散布図エリア

- A: 1◆子どもは、教室に行くことを楽しみにしている
- A: 2◆教室の目的や支援方針について、わかりやすい説明がある
- A: 3◆教室の目的や支援方針に、共感できる
- A: 4◆子どもや保護者の個人情報の保護に、配慮がなされている
- A: 5◆子どもの理解や関わり方を、学ぶことができる
- A: 6◆子どもの発達や療育に必要な内容を、学ぶことができる
- A: 7◆活動プログラムについてわからないことを、質問できる
- A: 8◆子育てで困っていることや悩みについて相談できる
- A: 9◆教室参加を通しての子どもの成長や変化について、個別に説明がある
- A: 10◆子どもの成長や変化について個別に相談できる機会がある
- B: 11◆将来の進路(就学)に関する相談や情報提供が行われ、保護者との連携がとられている
- D: 12◆将来の進路(就職)に関する相談や情報提供が行われ、保護者との連携がとられている
- B: 13◆将来の進路(就学、就職、生活の仕方など)について保護者が考える機会を設けている
- B: 14◆医療機関や教育機関などの地域資源、福祉サービスに関する情報提供が行われている
- A: 15◆他の参加者の保護者と話しができた、保護者同士と交流できるような、情報交換の機会を設けている
- A: 16◆活動プログラムでの、子どもへの支援、ことばかけや働きかけは適切である
- A: 17◆子どもは、活動プログラムに満足している
- A: 18◆子どもが自主的に活動に取り組めるよう支援している
- A: 19◆プログラムは工夫されていてわかりやすい
- A: 20◆プログラムの進む速さは適切である
- A: 21◆プログラムのねらいや目的についてわかりやすい説明がある
- A: 22◆プログラムで行われる集団指導が充実している
- A: 23◆プログラムで行われる個別指導が充実している
- A: 24◆プログラムの回数や時間(例: 月2回・2時間など)は適切である
- A: 25◆教室の参加人数は適切である
- A: 26◆教室にあるおもちゃや遊具の種類や数は適切である
- A: 27◆教室の指導員など、スタッフの数は適切である
- A: 28◆施設の設備(例: トイレ、エレベーター、案内表示など)は整備されている
- A: 29◆施設や教室内は、清潔で整理されている
- B: 30◆通園している保育所や幼稚園と、教室のスタッフが連絡を取り合うなど、連携を行っている
- B: 31◆乳幼児健診や母子保健担当の保健師らと、情報交換や連携を行っている
- D: 32◆医療機関や教育機関などの地域資源、福祉サービスの機関と連絡を取り合うなど、連携を行っている
- D: 33◆家庭などを訪問して子育ての相談にのるなどの活動が行われる
- D: 34◆家族への連絡や共通理解を図るための働きかけ(教室外でも、電話や手紙による連絡を行う、個別相談の時間を取る、など)を行っている
- D: 35◆家族(夫や祖父母など、教室に同伴していない家族)への説明や共通理解を図る機会を設けている
- D: 36◆教室の活動について、地域での広報や宣伝活動を行っている
- D: 37◆地域の子育て支援活動(おやこ広場、子育てサロン、各地域の子育て支援教室など)との連携を行っている

▼おわりに

・調査にご協力いただきましたセンター利用のご家族の皆さま、一関子育て支援センター職員の皆さまに、記して謝意を表します。